

T-ブロック ラテル&ウォルズ

取付説明書

- このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- 正しく施工、組付けをしていただくために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。

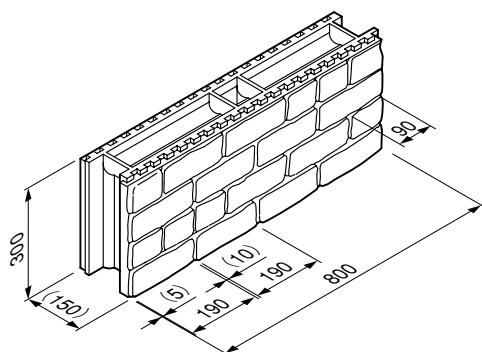
<注意事項>

- モルタル施工は5℃以下では行なわないでください。
- 特に凍結が予想される場合は注意してください。

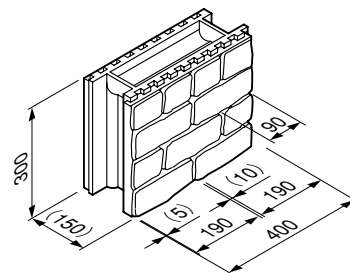
1. ブロックの種類および寸法

(※製法上、ブリックの表面仕上がり、ブロックの仕上がり寸法には「バラツキ」があります。)

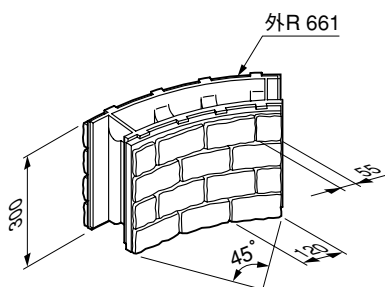
1-1 基本ブロック(ラテル)



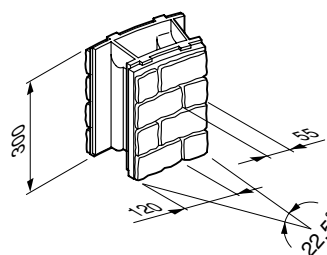
1-2 半切ブロック(ラテル)



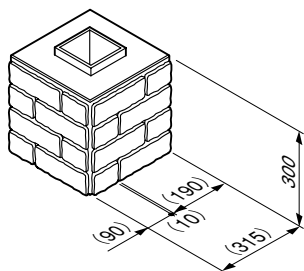
1-3 Rブロック(ラテル)



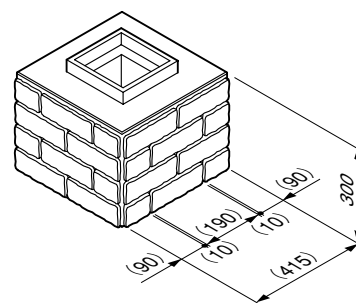
1-4 R半切ブロック(ラテル)



1-5 300角ブロック(ラテル)

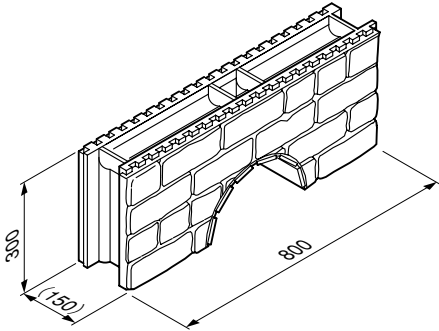


1-6 400角ブロック(ラテル)

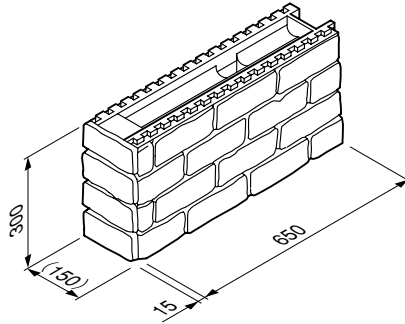


1. つづき

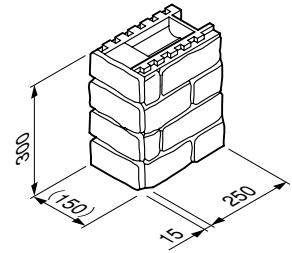
1-7 窓枠ブロック上用
(ラテル)



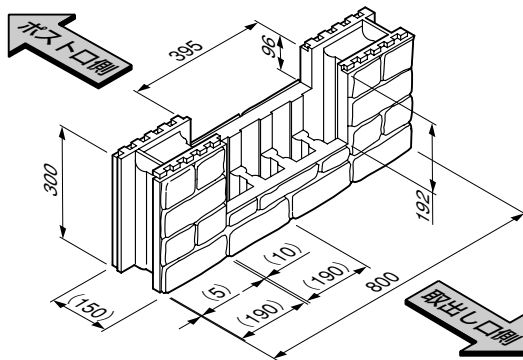
1-8 窓枠ブロック下用(大)
(ラテル)



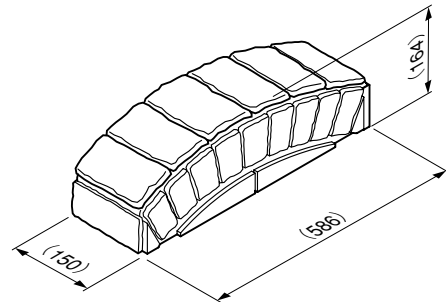
1-9 窓枠ブロック下用(小)
(ラテル)



1-10 ポスト用基本ブロック(ラテル)
※TOEXポスト 口金タイプ専用

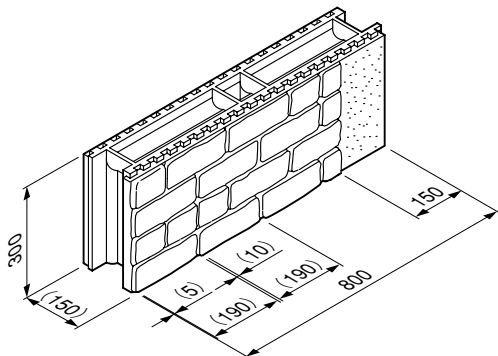


1-11 天端用デザインブロック
(ラテル・ウォルズ共用)

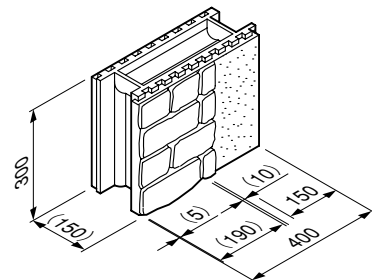


● 下段ブロック用笠木、2枚同梱です。

1-12 基本コーナースタック(右)(ラテル)



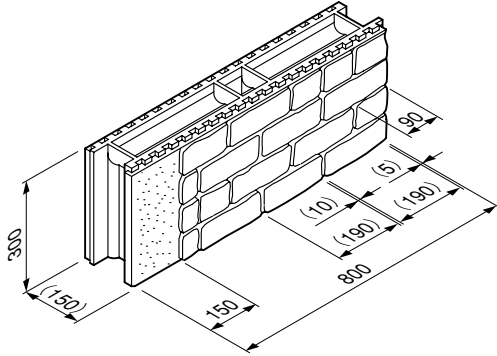
1-13 半切コーナースタック(右)(ラテル)



● コーナーブロックは、ガーデンヌック・ユニットガーデン用です。

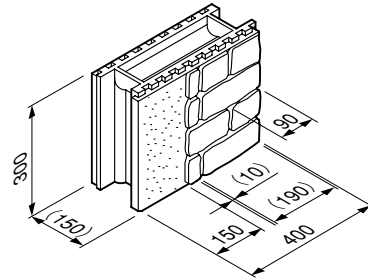
● コーナーブロックは、ガーデンヌック・ユニットガーデン用です。

1-14 基本コーナースタック(左)(ラテル)



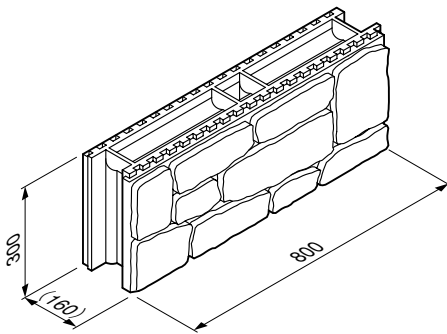
● コーナースタックは、ガーデンヌック・ユニットガーデン用です。

1-15 半切コーナースタック(左)(ラテル)

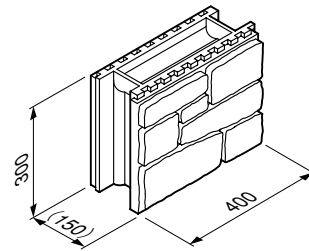


● コーナースタックは、ガーデンヌック・ユニットガーデン用です。

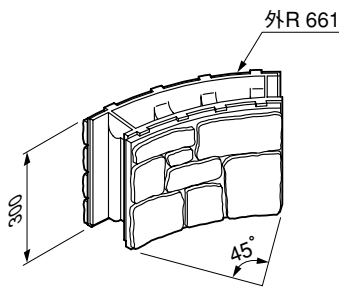
1-16 基本ブロック(ウォルズ)



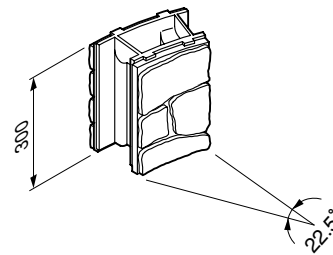
1-17 半切ブロック(ウォルズ)



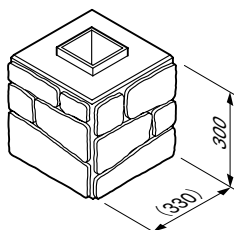
1-18 Rブロック(ウォルズ)



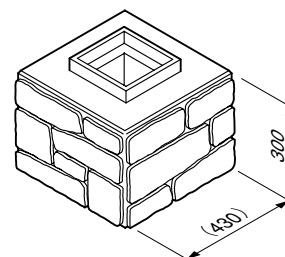
1-19 R半切ブロック(ウォルズ)



1-20 300角ブロック(ウォルズ)

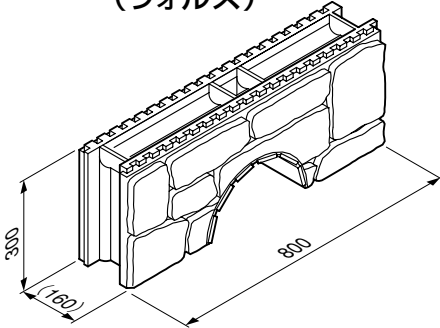


1-21 400角ブロック(ウォルズ)

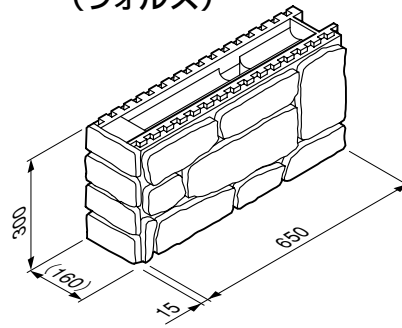


1. つづき

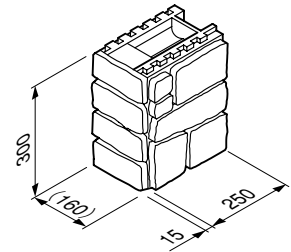
1-22 窓枠ブロック上用
(ウォルズ)



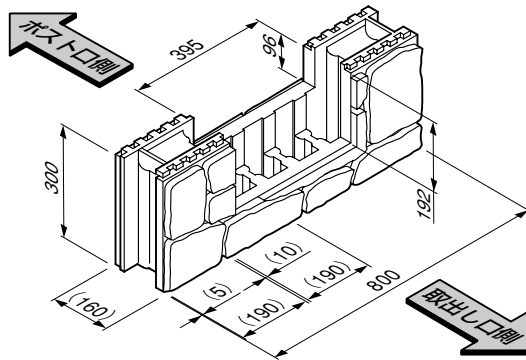
1-23 窓枠ブロック下用(大)
(ウォルズ)



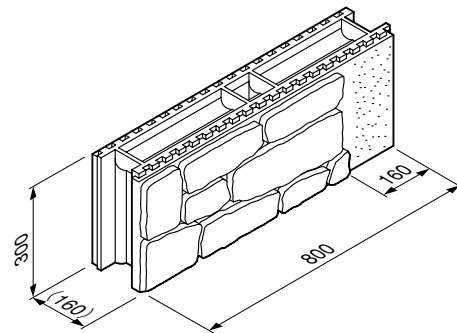
1-24 窓枠ブロック下用(小)
(ウォルズ)



1-25 ポスト用基本ブロック(ウォルズ)
※TOEXポスト 口金タイプ専用

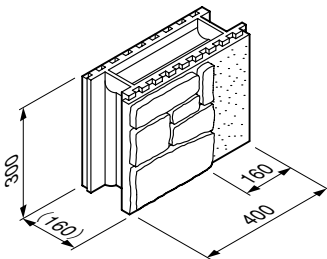


1-26 基本コーナブロック(右)(ウォルズ)

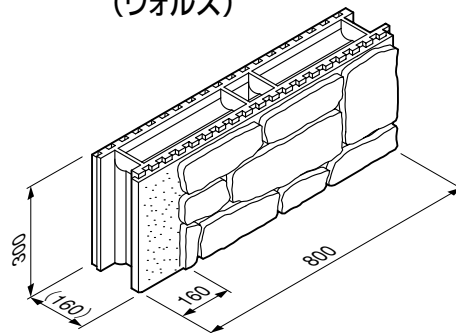


●コーナブロックは、ガーデンヌック・ユニットガーデン用です。

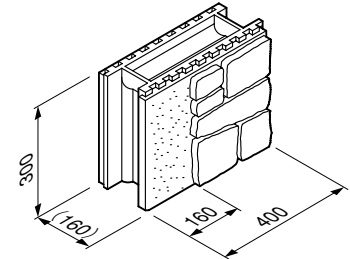
1-27 半切コーナブロック(右)
(ウォルズ)



1-28 基本コーナブロック(左)
(ウォルズ)



1-29 半切コーナブロック(左)
(ウォルズ)



●コーナブロックは、ガーデンヌック・ユニットガーデン用です。

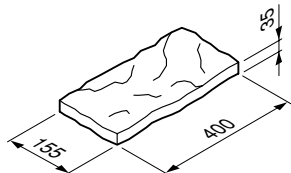
●コーナブロックは、ガーデンヌック・ユニットガーデン用です。

●コーナブロックは、ガーデンヌック・ユニットガーデン用です。

2. 端部用部材・笠木の種類および寸法

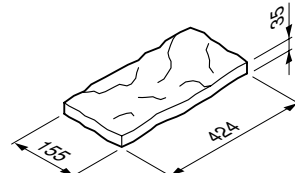
(※製法上、表面仕上がり状態、仕上がり寸法には「バラツキ」があります。)

2-1 天端笠木砂岩調
(中間用)



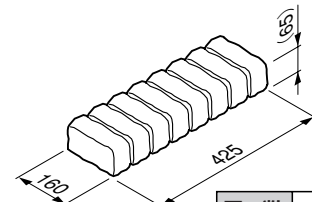
員数 2ヶ

2-2 天端笠木砂岩調
(端部・両端部用)



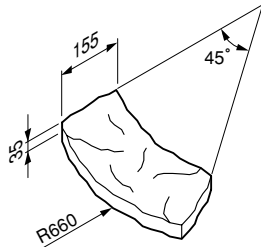
員数 2ヶ

2-3 石積調笠木
(ヨークイエローのみ)



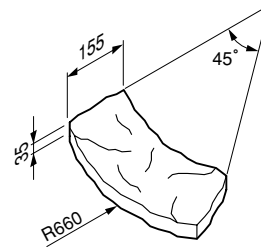
員数 1ヶ

2-4 天端笠木砂岩調 (Rブロック中間用)



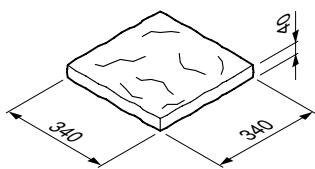
員数 1ヶ

2-5 天端笠木砂岩調 (Rブロック端部・両端部用)



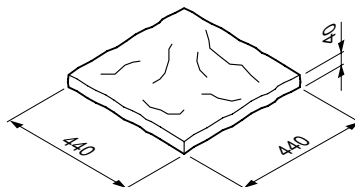
員数 1ヶ

2-6 天端笠木砂岩調 (300角ブロック用)



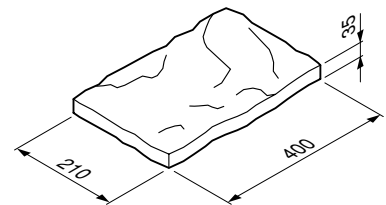
員数 1枚

2-7 天端笠木砂岩調 (400角ブロック用)



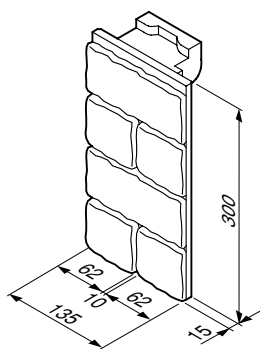
員数 1枚

2-8 花台笠木砂岩調



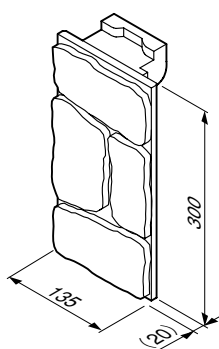
員数 2枚

2-9 端部パネル (ラテル)



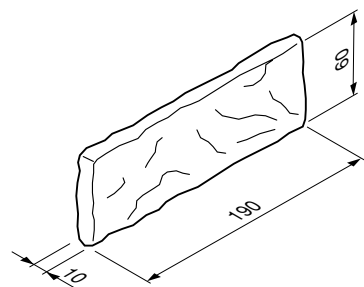
員数 10枚

2-10 端部パネル (ウォルズ)



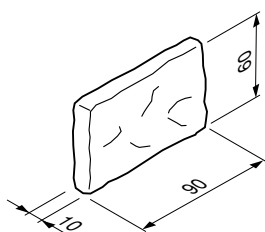
員数 10枚

2-11 T-ブリック (L-190)



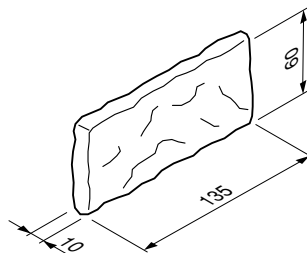
員数 10枚

2-12 T-ブリック (L-90)



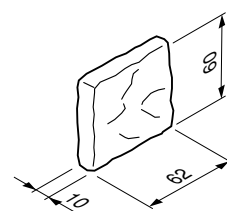
員数 20枚

2-13 端部用ブリック (L-135)



員数 10枚

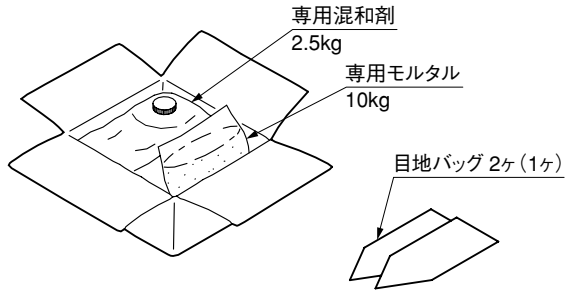
2-14 端部用ブリック (L-62)



員数 20枚

3. その他の部品

3-1 現場張り用モルタルセット (8m分)



- ブリック現場張付け用の専用モルタルです。天端や小口面積約8m分施工できます。詳しくは、同梱の取付説明書をご覧ください。

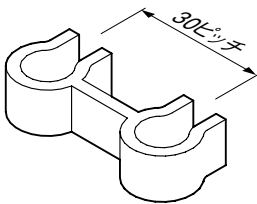
3-2 専用接着剤 (灰色)



員数	1本
----	----

- 1本で端部パネルを15枚接着できます。
- ブロックのジョイント部のすき間の充てん用にも使用できます。

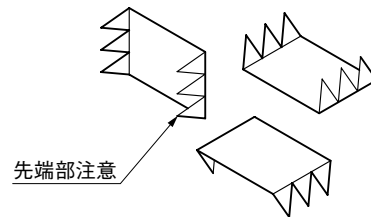
3-3 鉄筋クリップ



員数	100ヶ
----	------

- タテ筋の仮固定用クリップです。

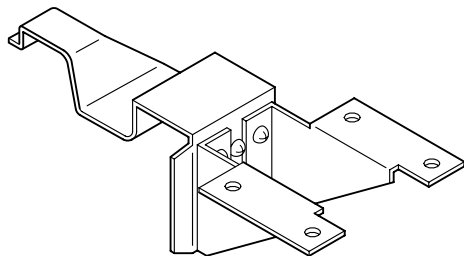
3-4 ブロックジョイント材 (万能型)



員数	50ヶ
----	-----

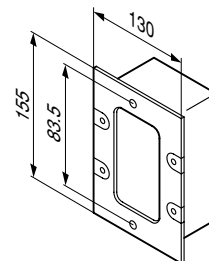
- 1段目のブロック同士を連結し、仮固定する部品です。

3-5 ポスト取付金具



- 基本ブロック,300角・400角ブロックに埋込んで、BA型ポストを取付けるための部品です。ブロック施工と同時に施工する部分がありますので注意してください。詳しくは、同梱の取付説明書をご覧ください。

3-6 インターホン取付台座



員数	本体	1ヶ
	クッション材	2ヶ
	φ5.5×45ネジ	4本
	φ5.9×40プラグ	4本

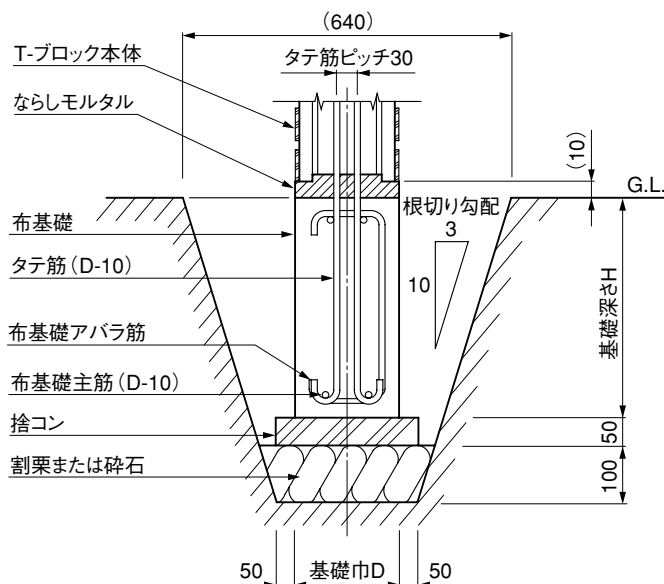
- インターホン(露出型)をブロックに確実に固定するための台座です。

4. 基礎の施工

<注 意>

- 壁体の構成において基礎施工が強度に大きく影響します。特にタテ筋は必ず基礎に定着させてください。
- 基礎施工が不十分ですと、壁が転倒するおそれがあります。必ず決められた通りの施工をしてください。
- タテ筋ピッチは次ページ「5. タテ筋の配筋」をご覧ください。

4-1 塀1～5段積み



基礎断面図

基礎寸法表

(寒冷地においては、凍結深度が優先されます。)

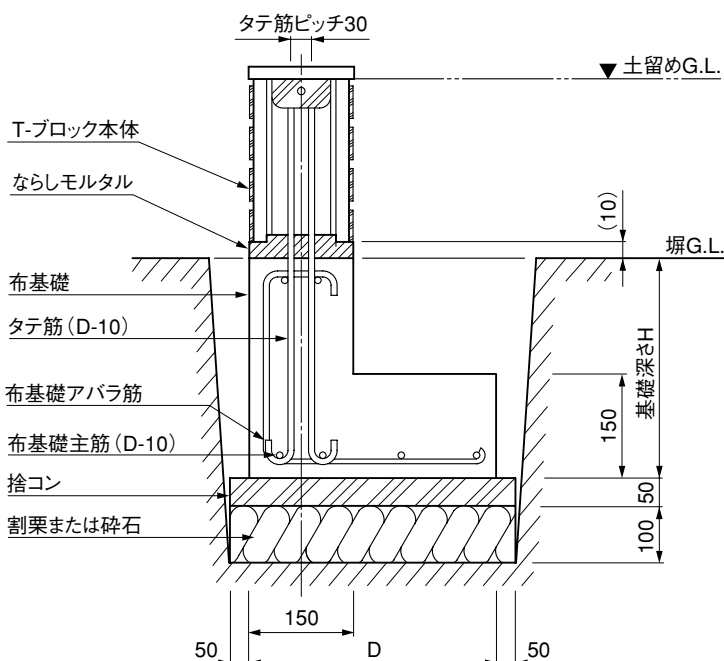
ブロック段数	基礎サイズ(巾D×深H)
塀1～4段	180×200 または 150×300
塀5段	180×400 または 150×500

歩掛表(数量は1m当たりを示します。)

名称	規格	数量
割栗石	C-40	0.03m ³
捨コンクリート	160kgf/cm ² 以上	0.013m ³
基礎コンクリート	180kgf/cm ² 以上	0.07m ³
ならしモルタル	1:3	0.007m ³
布基礎主筋	D-10	4m
布基礎主アバラ筋	D-10	0.9m

(5段積み 180×400の場合)

4-2 塀6段積み・プランター(土留め)



基礎断面図

基礎寸法表

(寒冷地においては、凍結深度が優先されます。)

ブロック段数	基礎サイズ(巾D×深H)
塀6段	400×250
プランター1段	380×200
プランター2段	570×250

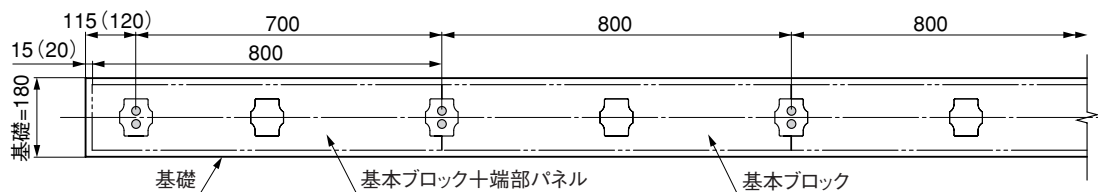
5. タテ筋の配筋

<注 意>

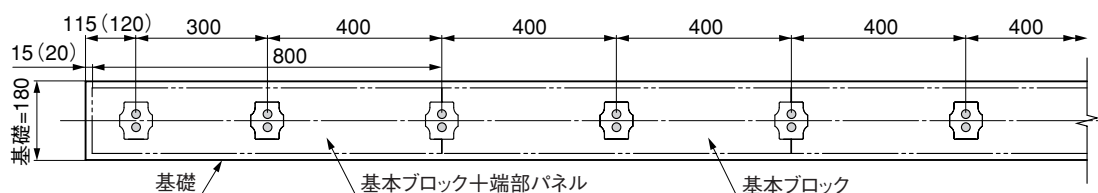
- 必ず鉄筋クリップを使ってD-10の鉄筋2本を30ピッチで施工してください。
- モルタルのかぶりを均一にするために、タテ筋はモルタル充てん穴のほぼ中央に施工してください。

5-1 直線部のタテ筋ピッチ(※()内寸法は「ウォルズ」の場合を示します。)

(1) 塀1～5段・土留め1段



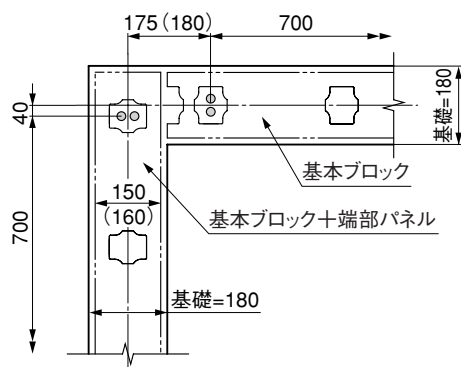
(2) 塀6段・土留め2段



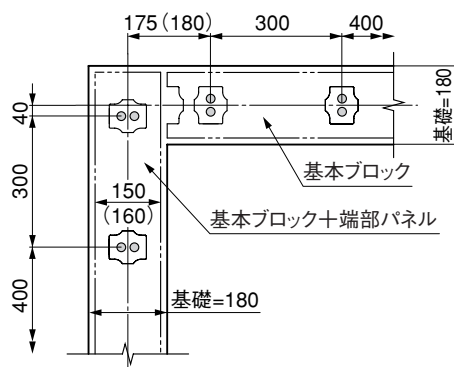
5-2 コーナー部のタテ筋ピッチ(※()内寸法は「ウォルズ」の場合を示します。)

基本ブロック(端部パネル付)と基本ブロックを使った場合

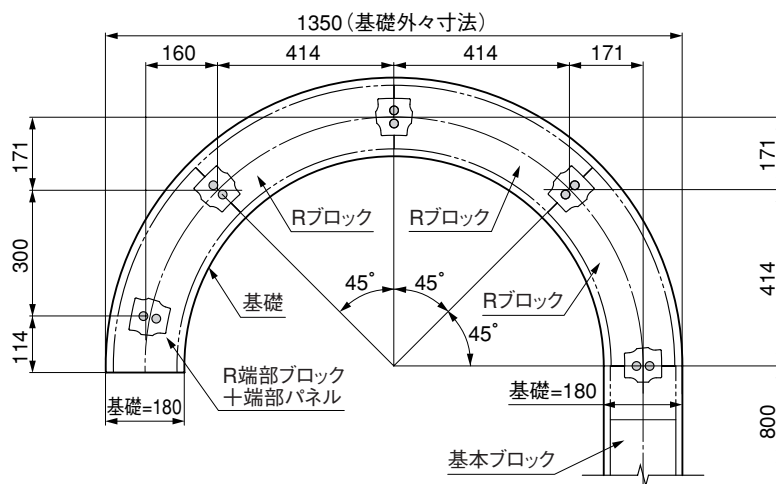
(1) 塀1～5段・土留め1段



(2) 塀6段・土留め2段

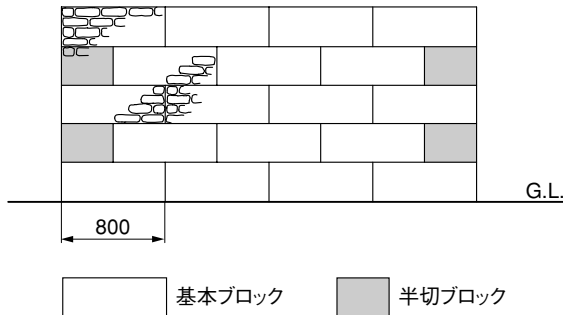


5-3 Rブロック(塀1～6段・土留め1,2段共通)のタテ筋ピッチ(※()内寸法は「ウォルズ」の場合を示します。)



6. ブロックの割付け

6-1 直線部分のブロックの割付け（※ブロックは最大6段積みです。）

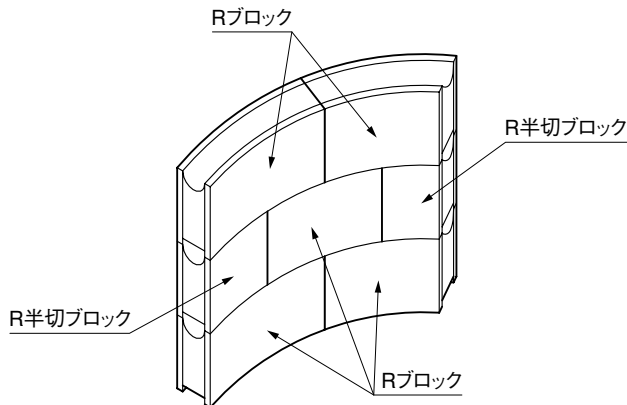


- ① 千鳥になるように、基本ブロックと半切ブロックを割付けてください。

<注 意>

- 6段積みを超えて施工しないでください。風や地震により、倒壊するおそれがあります。

6-2 R部分のブロックの割付け（※ブロックは最大6段積みです。）

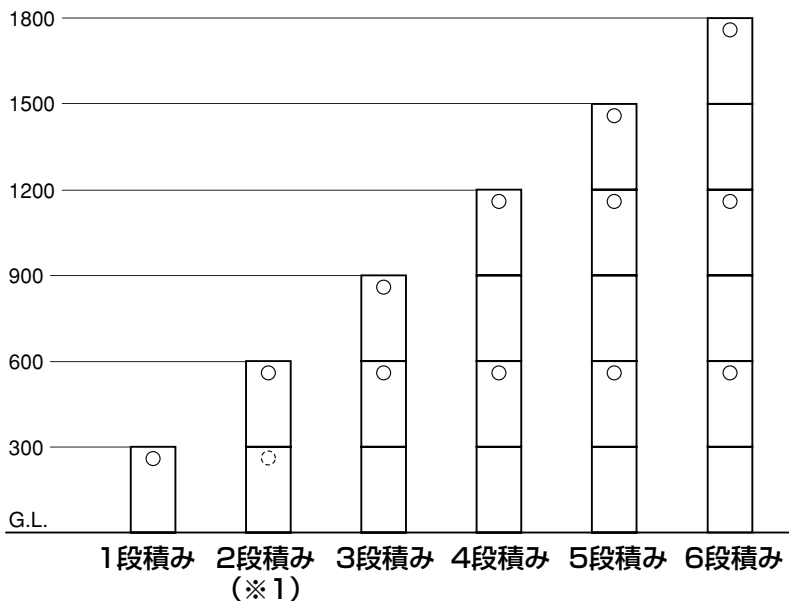


- ① 千鳥になるように、RブロックとR半切ブロックを割付けてください。

<注 意>

- 6段積みを超えて施工しないでください。風や地震により、倒壊するおそれがあります。

7. ヨコ筋の配筋



- ① ヨコ筋は2段目および4段目とすべての最上段に1本入れてください。

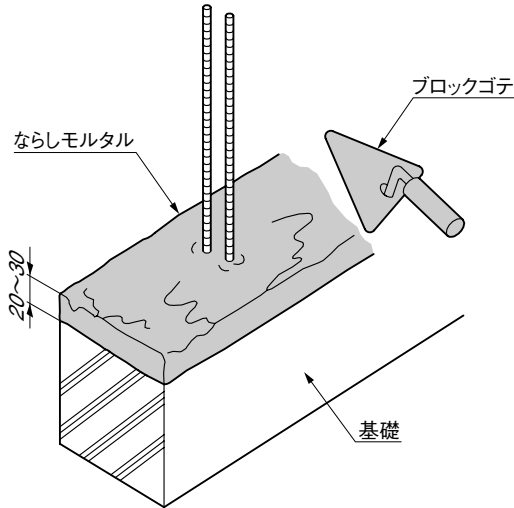
<注 意>

- プランター（土留め）施工の場合は、1段目と2段目にヨコ筋を入れてください。（※1）
- 階段状のような特殊な場合は、1段目と3段目というように2段に1本入れると考えてください。

※○印がヨコ筋入れ部です。

8. ブロックの施工

8-1 ならしモルタルの打設

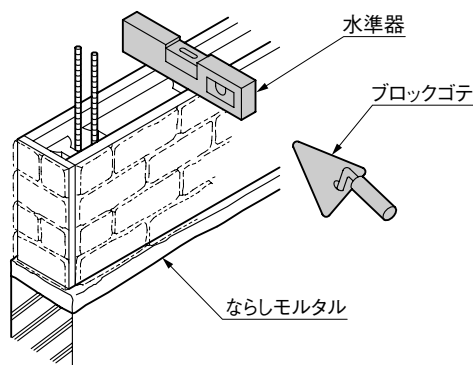
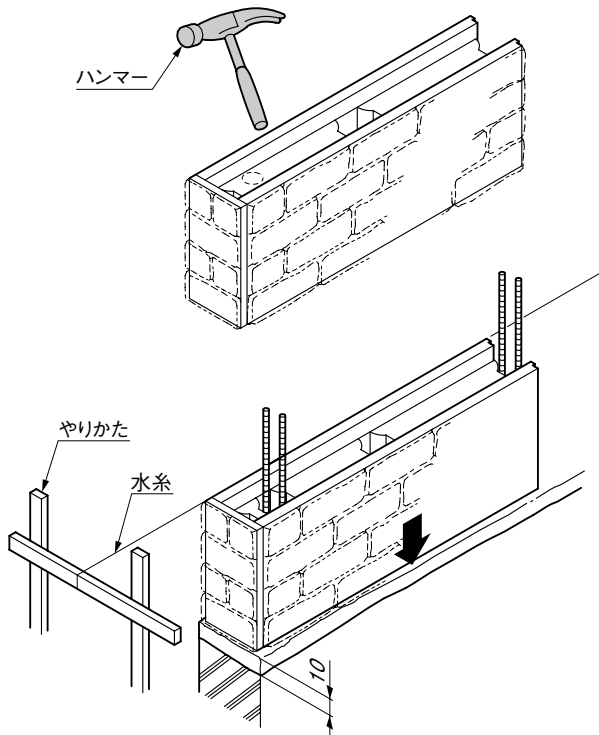


- ① 砂（中目）3:セメント1のモルタルを基礎上に、約20～30mmの厚さで敷いてください。

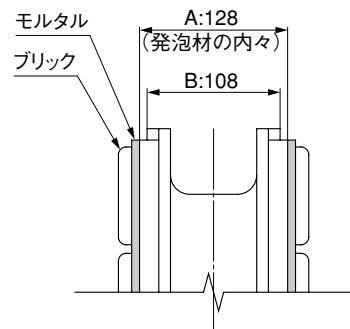
<注意>

- やや、やわらかめにモルタルを練るとブロックのレベル出しが行ないやすくなります。
- 一度に長くならしモルタルを打ちますと最後は硬くなり、ブロックのレベル出しがむずかしくなるのでブロック2～3個程度ごとにモルタルを打ってください。
- 基礎は必ず水で湿らせてから、ならしモルタルを打ってください。

8-2 ブロックの据え付け・レベル出し ※必ず、端部処理を行ってから施工してください。（「9.端部の処理」参照）



- ① 最初に施工する1段目、端部のブロックはタテ筋の穴をハンマーの柄等であけてください。（タテ穴はふさがっていますが簡単に穴があきます。）
- ② ならしモルタルにブロックが15mm程度入るようにし、おさえつけて安定させてください。



<注意>

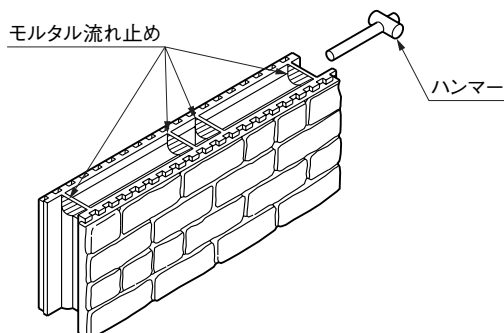
- AかBに「水糸」をあてる場合の参考寸法です。

- ③ 長手方向のレベルは水糸で見ますが倒れ方向は水準器で確認してください。倒れている場合は倒れている方のならしモルタルのはみ出しをブロックゴテ等で内に入れて、調整してください。

<注意>

- 2段目以降は、はめ込み式のため「通り」「倒れ」の調整がほとんどできません。1段目の施工精度がそれ以降に影響しますので、十分にレベル調整をしてください。

8-3 モルタル流れ止めの取除き

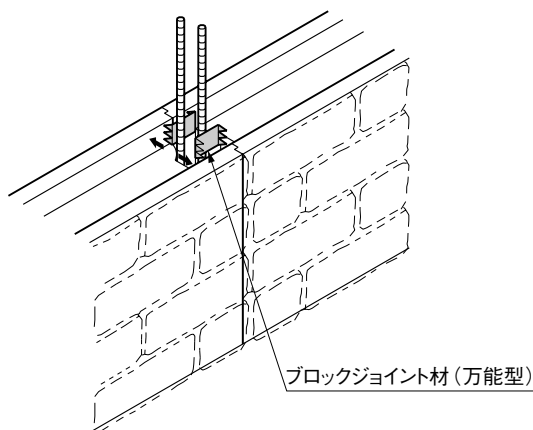


- ① ヨコ筋を施工するブロックは、「モルタル流れ止め」をハンマーの柄等で完全に取除いてください。

<注 意>

- 「モルタル流れ止め」は完全に取除いてください。不十分ですとモルタルの強度低下の原因になります。

8-4 ブロックの仮固定

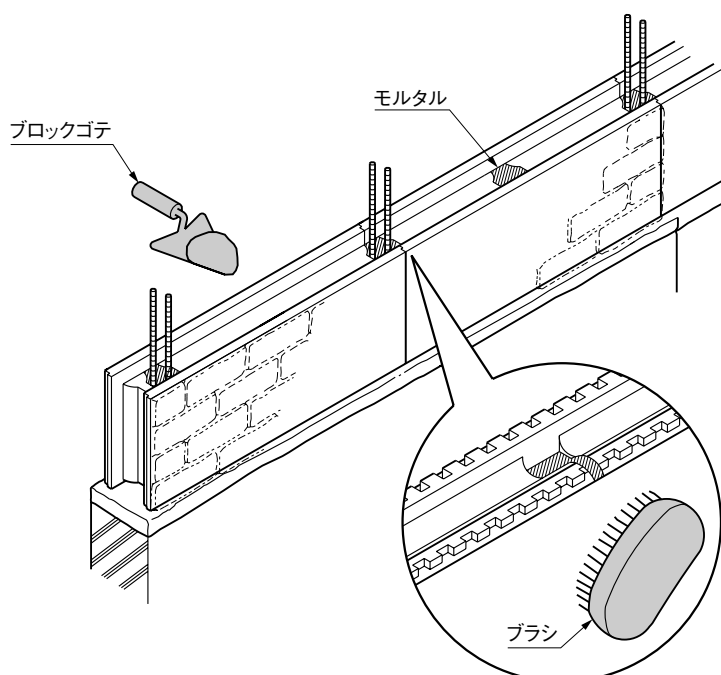


- ① ブロックの「通り」と「倒れ」の調整ができれば、ブロック同士のジョイント部に「ブロックジョイント材」を取付け、ブロックを仮固定させてください。
- ② 「8-5 モルタルの充てん」にしたがってモルタルを充てんしてください。

<注 意>

- ブロックジョイント材 (万能型) は取りはずさずに、そのままブロックを積上げてください。
- 先端部がとがっていますので、十分注意して施工してください。
- ブロックジョイント材 (万能型) は1段目のみ使用してください。

8-5 モルタルの充てん



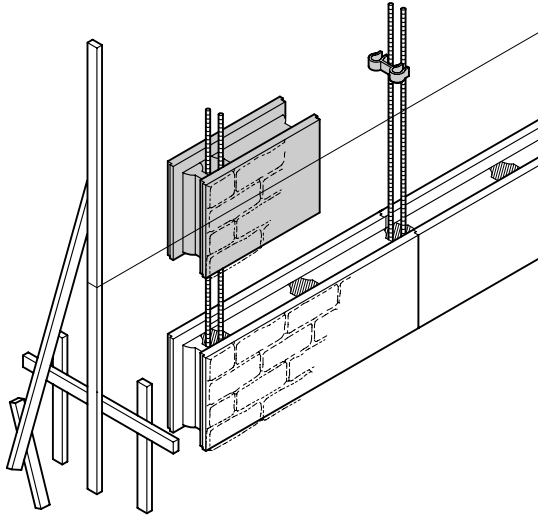
- ① タテ穴にモルタル (砂3:セメント1) を充てんしてください。充てん場所はタテ筋の穴とその中間の穴です。(W400ブロックには中間穴がありません。) プランター (土留め) の場合は、すべての穴にモルタルを充てんしてください。その際、ふさがっている穴は「8-2 ブロックの据え付け・レベル出し」にしたがって、あらかじめ穴を貫通させてください。

<注 意>

- モルタルの配合は、砂3:セメント1としてください。また、左官用の軽量骨材等は使用しないでください。モルタルの強度低下の原因になります。
- 砂は中目～細目を使用してください。
- 凹凸に付着したモルタルは、ブラシ等で取り除いてください。そのまま付着させておくと、上段がうまはまらなくなります。

8. つづき

8-6 2段目のブロックの積上げ

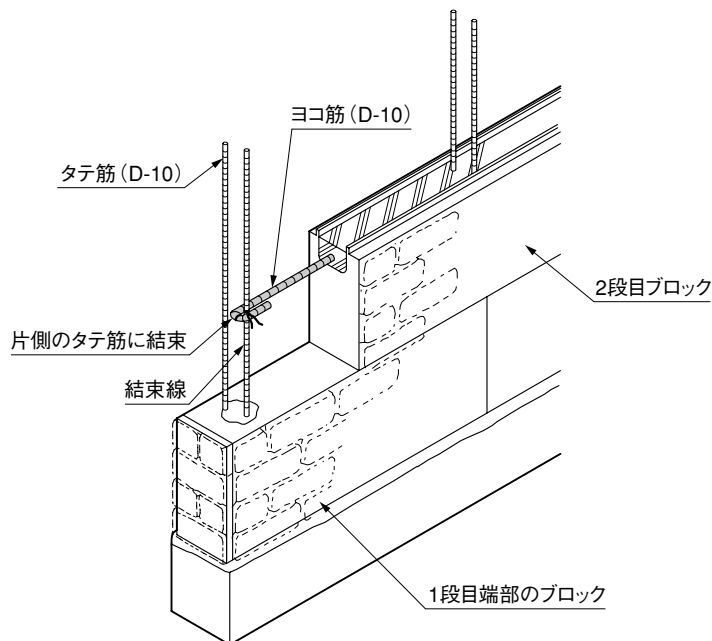


- ① 「6.ブロックの割付け」にしたがい、ブロックの凹凸をカン合させて積上げてください。

<注意>

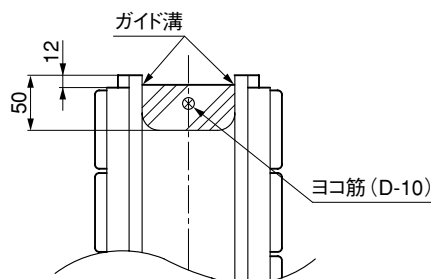
- 鉄筋クリップは取りはずしてください。くり返し使用できます。
- 2段目以降の施工は、1段目の充てんモルタルがある程度固まってからの施工をおすすめします。

8-7 ヨコ筋の配筋

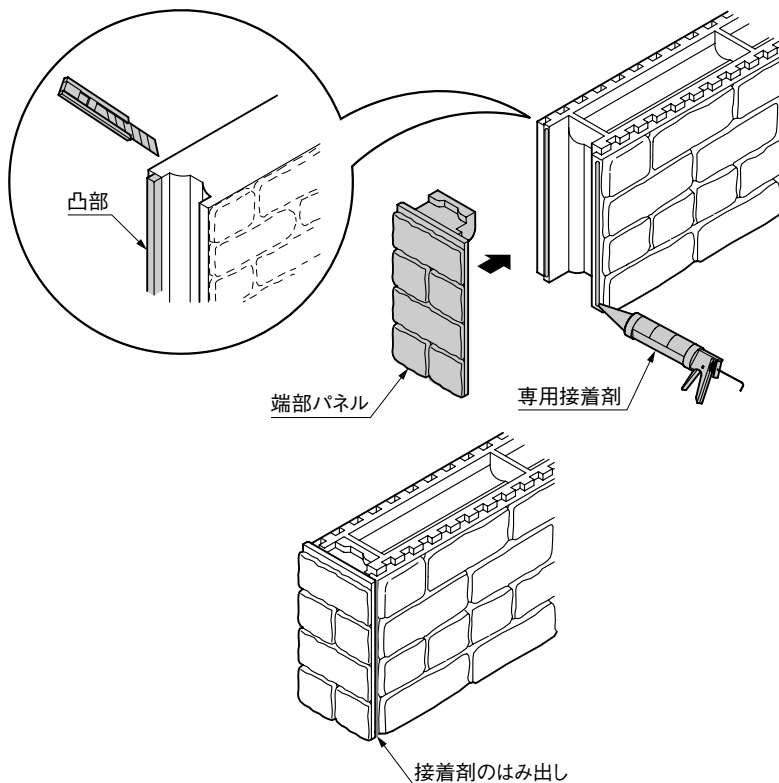


<注意>

- モルタルはガイド溝まで充てんしてください。
- ヨコ筋は、タテ筋のどちらか一方と結束してください。
- ヨコ筋は、モルタルのかぶりを均一にするために中央にセットしてください。



9. 端部の処理



① 「端部になるブロック」の凸部を、カッター等で
取除いてください。

② 左図の位置へ「専用接着剤」を塗布してくだ
さい。(2ヶ所)

<注 意>

● 「専用接着剤」以外は絶対に使用しないで
ください。発泡材を侵すおそれがあります。

③ 端部パネルを手で押えてセットしてください。
(接着剤と充分なじむ程度)

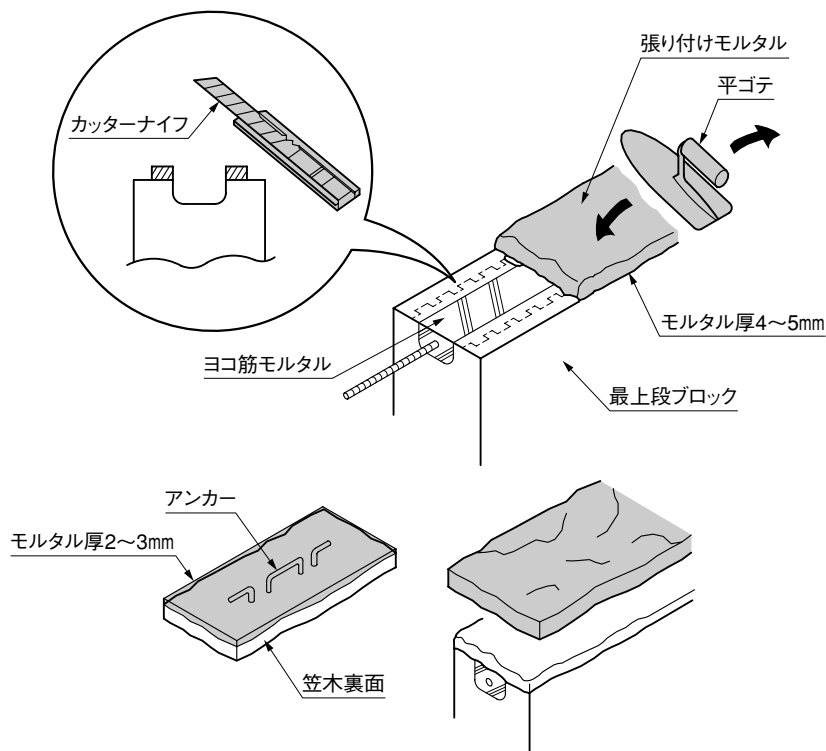
<注 意>

● ハンマー等の工具を用いるとパネルが割れる
おそれがあります。

④ 「専用接着剤」がはみ出した場合は、「ヘラ」
等でならしてください。

10. 笠木の施工

10-1 天端笠木の施工 (※図は中間用、端部用で説明していますが、他の笠木も施工方法は同じです。)



① 最上段部のハメ合い用凸部分をカッターナイ
フ等で切断してください。

② ヨコ筋を配筋してモルタルを充てんし、コテで
ならしてください。

③ モルタルをブロック上面に約4~5mmの厚さで
ならしてください。

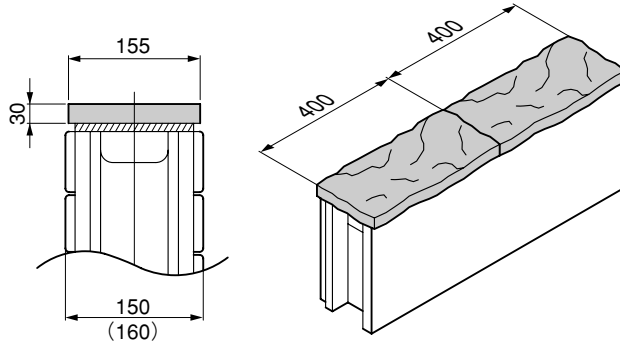
④ 笠木裏面のアンカーを手でおこしてください。

⑤ 笠木裏面にモルタルを2~3mm塗ってください。

⑥ 天端笠木を上から十分おさえて張り付けてくだ
さい。また、ヨコ筋と笠木のアンカーが干渉す
る場合は少しアンカーをまげてください。

10. つづき

10-1 つづき

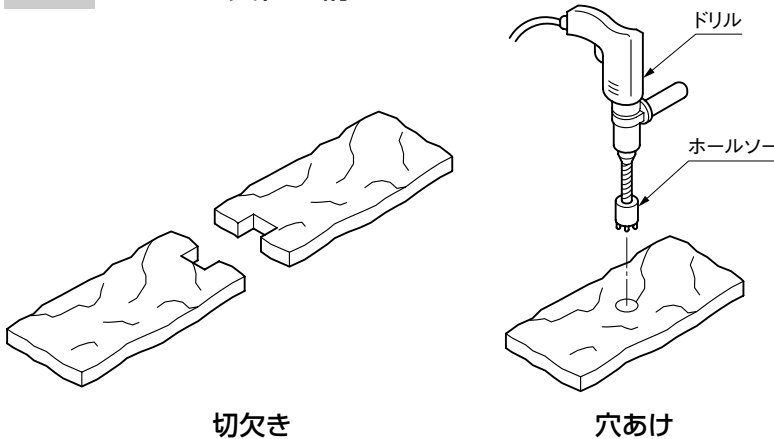


天端の取付け

<注 意>

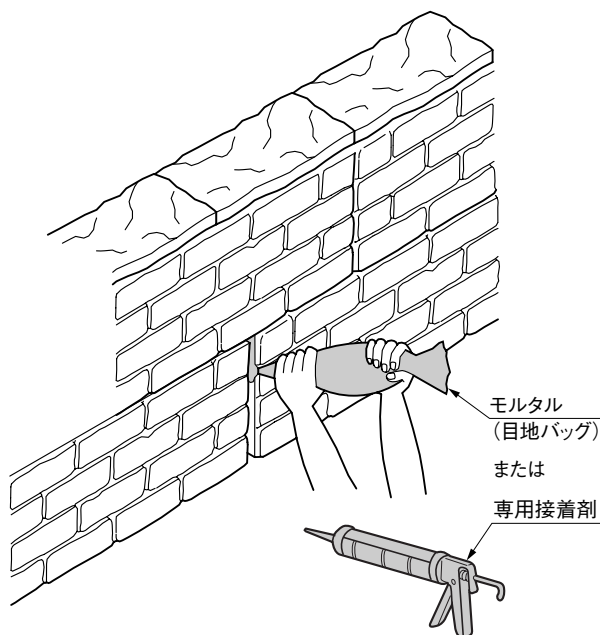
- 圧着するときは、十分加圧してください。(ビブラートでの施工をおすすめします。) 落下の原因になります。

10-2 フェンス支柱の納め



- ① フェンス支柱を納める場合、「切欠き」または「穴あけ」加工をしたうえで施工してください。

11. ブロック同士のすき間の処理



※施工誤差などにより、ブロック同士のすき間が発生した場合は、下記のいずれかの方法で処理してください。

- ① 「専用接着剤」ですき間を充てんしたうえで、「継目補修材」をハケで付着させてください。
- ② 「現場張り用モルタルセット」を用いてすき間を埋めてください。

<注 意>

- 「専用接着剤」以外は絶対に使用しないでください。発泡材を侵すおそれがあります。
- 目地バッグは、「現場張り用モルタルセット」に同梱されています。
- 「現場張り用モルタルセット」以外のモルタルを使わないでください。目地色が合いません。

12. コーナー部の処理

12-1 90° コーナーの場合

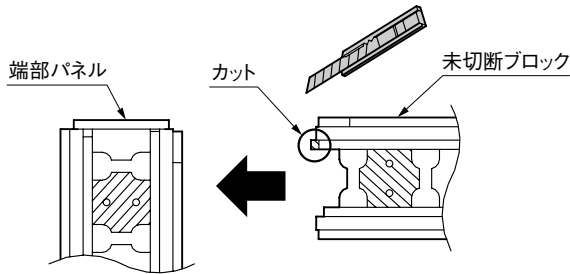


図12-1-1

① ブロック同士をつき合わせて施工してください。つきあてる側のブロックの凸部を、カッター等でカットしてください。(図12-1-1参照)

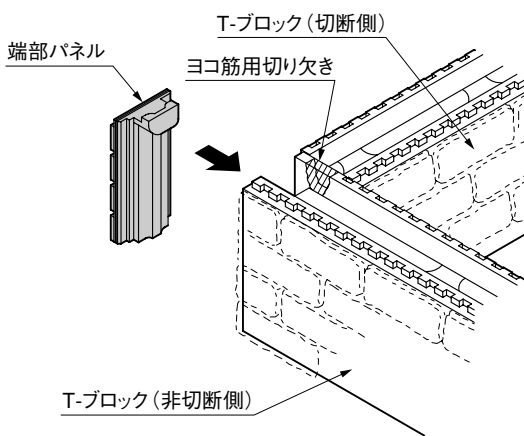


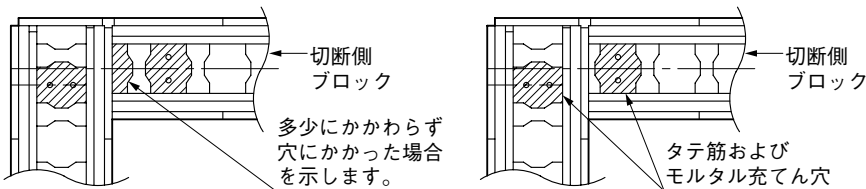
図12-1-2

② 隠れない端面側は端部パネルを接着してください。(詳細は「9.端部の処理」を参照してください。)

③ ヨコ筋の入る偶数段および最上段は、ブロックにヨコ筋用切り欠きが必要です。(図12-1-2参照) ハンドグラインダー等で切り欠いてください。

<注 意>

- コーナー部のモルタル充填およびタテ筋の配筋は図12-1-3を参照してください。

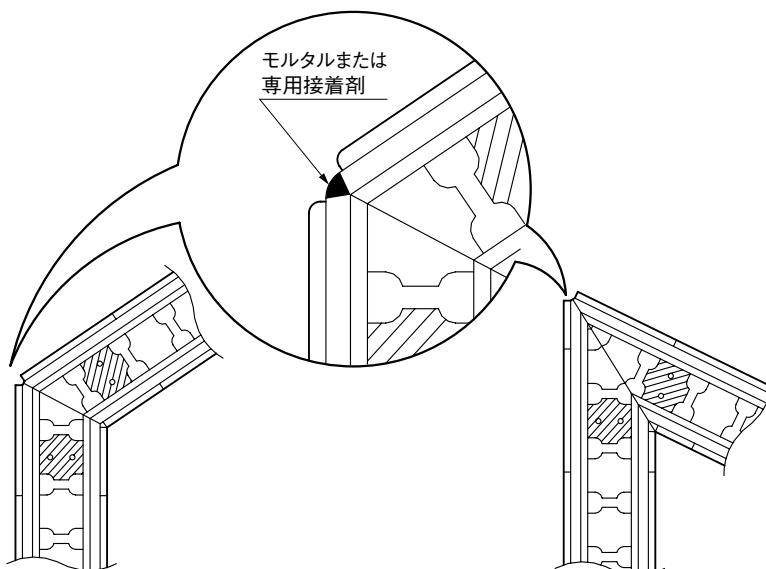


[切断面にモルタル穴がかかる場合]

[切断面が発泡材の場合]

図12-1-3

12-2 90° 以外の場合



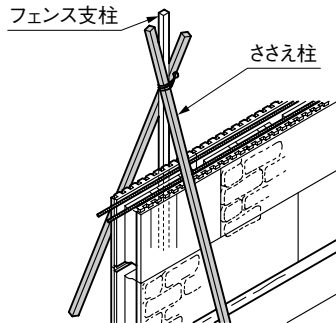
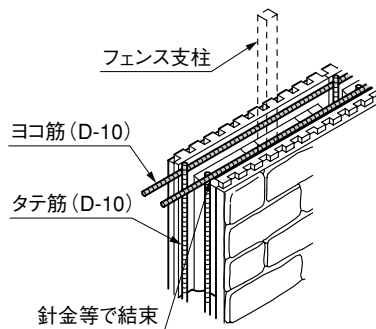
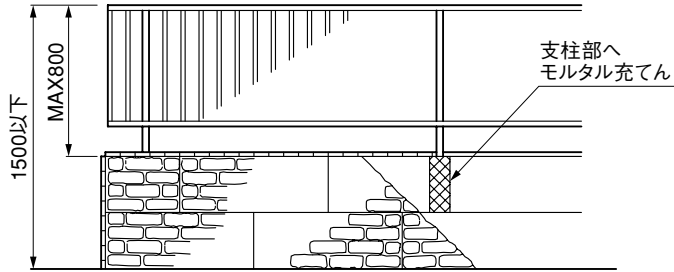
① 施工現場の角度に合わせてブロックを切断し、つき合わせてください。

② タテ筋は切断による欠けがない一番端側の穴に施工してください。

③ 出隅側のブロックタテ目地部は、「11.ブロック同士のすき間の処理」にしたがい、「現場張り用モルタルセット」または、「専用接着剤」および「継目補修材」で処理してください。

13. フェンスの取付け

13-1 フリーポールフェンスの納まり



<注 意>

- T-8までのフリーポールフェンスが施工できますが、Tブロック高さとの合計でH1500mm以下としてください。

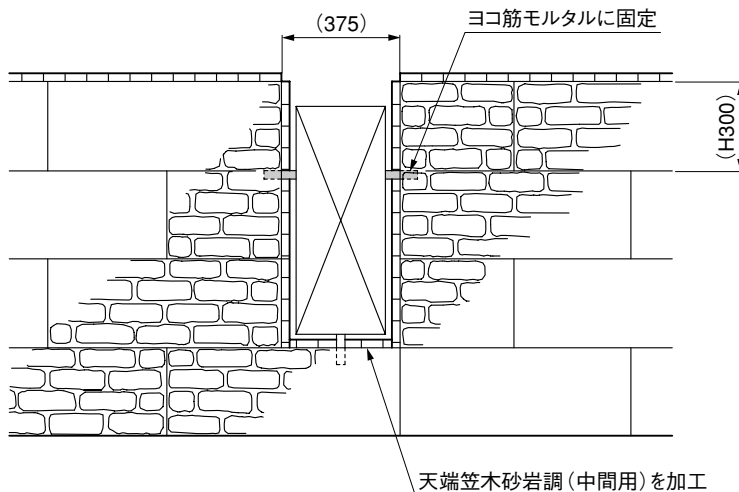
- ① フェンスの支柱を施工する場合は、天端のヨコ筋を2本としてください。(D-10鉄筋を使用してください。)

- ② 通常のモルタル充てん穴(「8-2 ブロックの据え付け・レベル出し」参照)とフェンス支柱が施工される穴に、モルタルを充てんしてください。

<注 意>

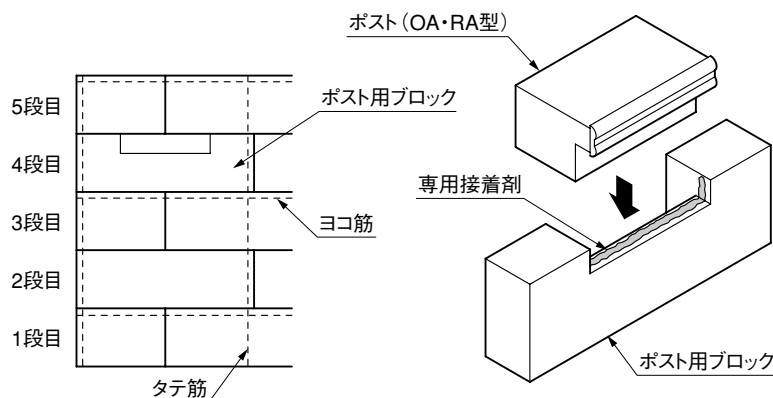
- ブロック施工と同時にフェンス支柱を施工しますが、フェンス本体は充てんしたモルタルが硬化してから取付けてください。

13-2 フィックスフェンスの納り図



14. ポストの取付け

14-1 ポスト用ブロックを使用する場合 (ポストは、TOEXポストOA・RA型専用)



<注 意>

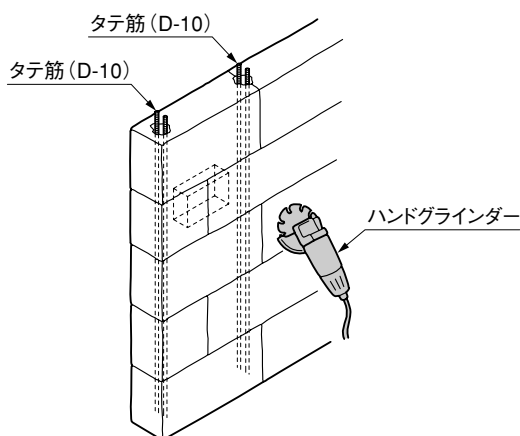
- ポスト用ブロックを用いる場合、ヨコ筋は左図の通り施工してください。

- ① ポストを取付ける前に、あらかじめポストに組付けられているスペーサーを取りはずしてください。
- ② ポスト用ブロックにポストを差込み、「専用接着剤」で接着してください。
- ③ 通常の基本ブロック等と同様にブロックを積んでください。

<注 意>

- 「専用接着剤」以外は絶対に使用しないでください。発泡材を侵すおそれがあります。

14-2 埋込型ポストの場合 (TOEXポストOA・RA型以外)



- ① タテ筋とタテ筋の間に埋込型ポストが取付けられます。上の段を積む前にポストの箱の外寸法+2~3mmでハンドグラインダー等でカットしてください。

<注 意>

- 発泡部分はカッターで切って、穴の大きさを調整してください。
- 口金タイプのポストも取付けは可能ですが、ブロックのカットは注意して行なってください。

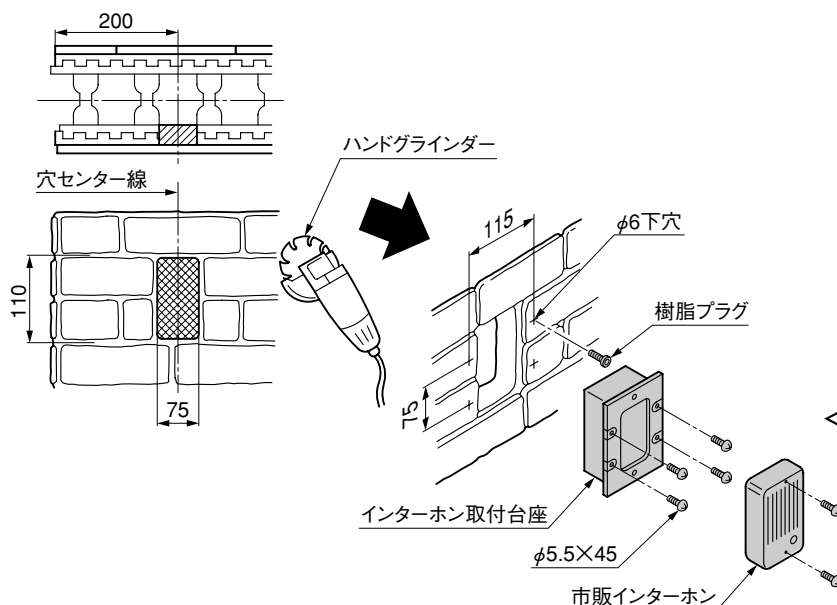
- ② 「専用接着剤」でポスト回りを接着してください。

<注 意>

- 「専用接着剤」以外は絶対に使用しないでください。発泡材を侵すおそれがあります。

15. インターホンの取付け

(※CD管等の電気配線、配管は基礎施工時よりあらかじめ計画し、埋設してください。)



- ① ブロックのタテ穴のセンター線を中心にタテ110mm、ヨコ75mmの穴をハンドグラインダー等であけてください。

- ② φ6の下穴を4ヶ所、コンクリートドリルであけ、付属の樹脂プラグを差込んでください。

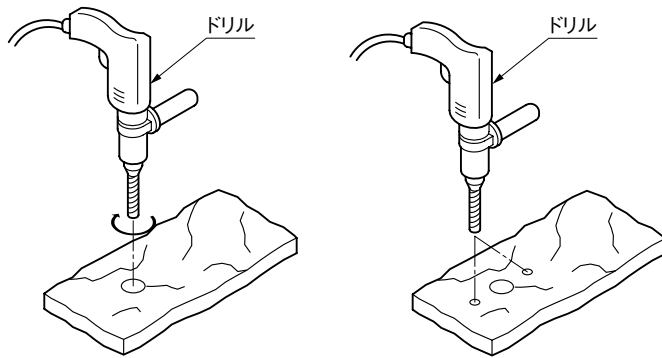
- ③ インターホンの取付台座をあけた穴にいれ、φ5.5×45のネジで固定してください。

- ④ 市販の露出型インターホンをインターホン台座に取付けてください。

<注 意>

- モルタル充てん用のタテ穴への取付けはしないでください。

16. 照明の取付け



- ① 天端笠木に現場加工にて照明の取付けが可能です。

<注意>

- 笠木をブロックに施工する前に、コード用の穴とプラグアンカー用の穴をドリルであけてください。(プラグアンカーは市販品を使用してください。)

17. 天端用デザインブロックの施工

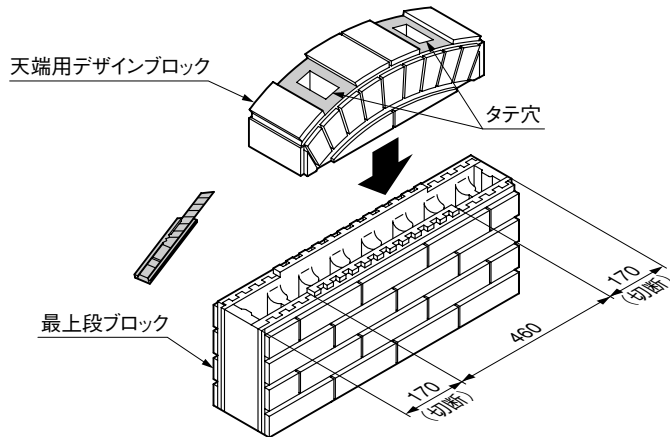
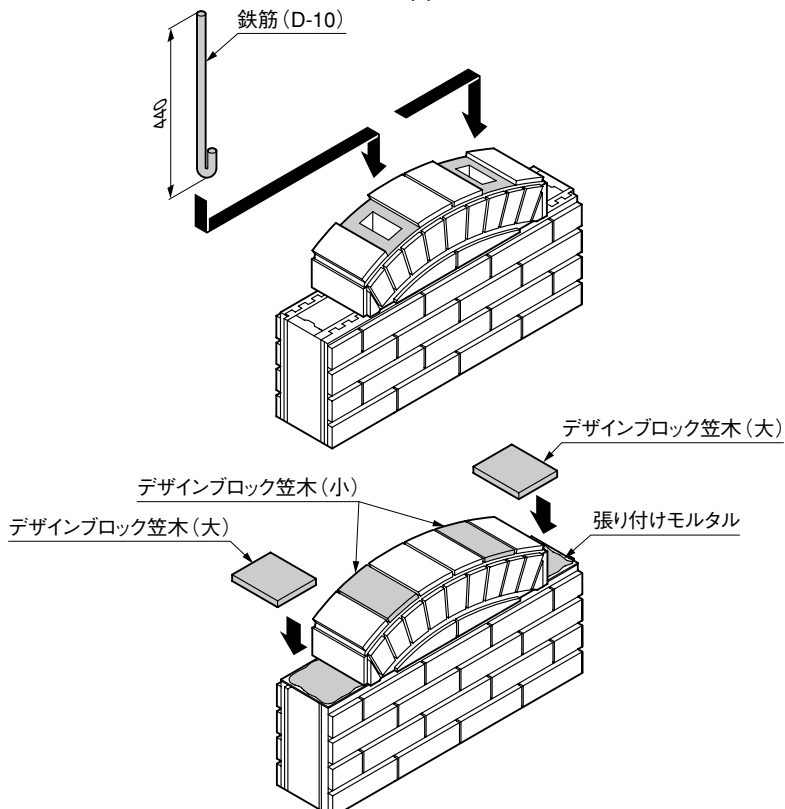


図18-1



- ① 最上段部のハメ合い用凸部分をA図のように両端から170mmずつカッターナイフ等で切断してください。

- ② 最上段ブロックにヨコ筋を配筋し、モルタルを充てんしてコテでならしてください。

- ③ 天端用デザインブロックを積み上げて、タテ穴2ヶ所にモルタルを充てんしてください。

- ④ 鉄筋D-10 (L=440) をタテ穴2ヶ所に挿入してください。

- ⑤ 充てんモルタルをしばらく乾燥させてください。

- ⑥ 「現場張り用モルタルセット」を練り合わせ、天端部に4～5mm厚で塗布してください。

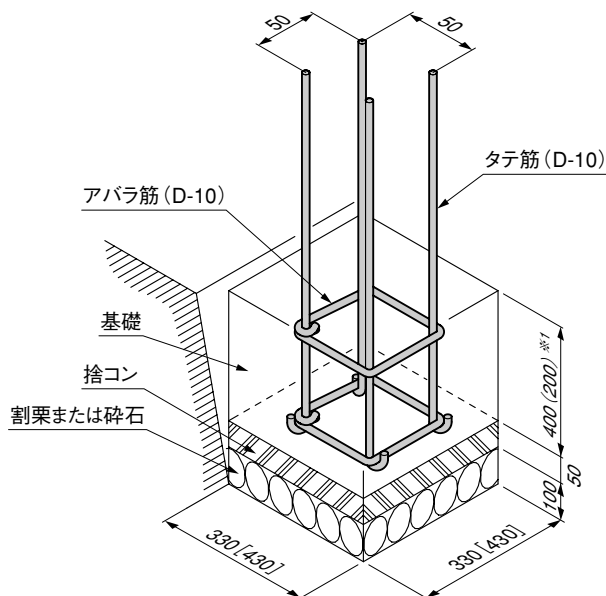
- ⑦ デザインブロック笠木 (計4枚) を圧着張りしてください。

<注意>

- 圧着するときは、充分加圧してください。(ピブラートでの施工をおすすめします。)
「現場張り用モルタルセット」は付属している説明書にしたがい混練してください。

18. 300角・400角ブロックの施工

18-1 基礎の施工



<注 意>

- 門柱と塀を連続して施工する場合は、必ず基礎内部で鉄筋を結合して一体化させてください。
- 4段積み以下の場合、基礎深さは200mm以上にしてください。(※1)
ただし、寒冷地においては、凍結深度が優先されます。
- 左図の寸法は、300角ブロックを施工する場合はです。
- []内寸法は、400角ブロックを施工する場合はです。

歩掛表

名称	規格	数量	
		300角	400角
割栗石	C-40	0.01m ³	0.02m ³
捨コンクリート	160kgf/cm ² 以上	0.005m ³	0.01m ³
基礎コンクリート	180kgf/cm ² 以上	0.05m ³	0.08m ³
ならしモルタル	1:3	0.004m ³	0.006m ³
アバラ筋	D-10	1.2m	2.0m

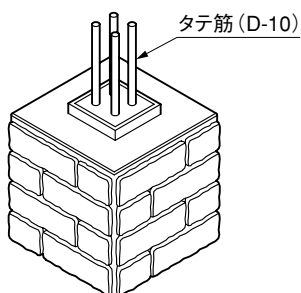
(5段積み)

18-2 角ブロックの基本施工

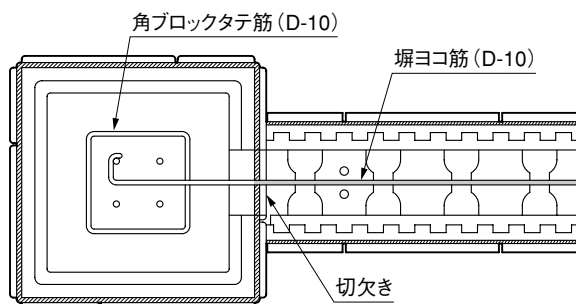
(1) 角ブロックの割付け

※最大6段積みです。ヨコ筋施工は不要です。

(2) ならしモルタルの打設・角ブロックの施工



(3) 塀と連続する角ブロックの施工



- ① 水準器でレベルの確認をし、調整してください。
- ② タテ穴にモルタル(砂3:セメント1)を充てんしてください。
- ③ 2段目以降は、ブロックの凹凸をカン合わせて積み上げてください。

- ① 塀と角ブロックを連続して施工する場合、強度を確保するために必ず、塀のヨコ筋を左図のように、角ブロックのタテ筋にカギ掛けをし、結束してください。

<注 意>

- その際、角ブロックの側面と中央凸部を切り欠いて、塀のヨコ筋が通るようにしてください。

19. 施工上、使用上の注意事項

<T-ブロック商品に対する知識>

- 自然な風合いを出すため、表面の凸凹や色合いは材料により違いがあります。
- ブロックごとの目地色の濃度に個体差が生じます。
 - お届け時または施工後、季節・施工条件などにより目地モルタル表面が一部白くなる場合がありますが、性能などに問題はありません。
 - 製法上、粒状、粉状の材料が表面に残っている場合がありますが、耐久性能上問題はありません。
 - 笠木は専用の砂岩調笠木または石積調笠木を使用してください。端部用ブリックの笠木への転用は耐候性能上おやめください。

<施工上のご注意>

■運搬および保管

- 搬入や施工時の運搬は、カド打ちに注意してください。
- 発泡芯材は太陽光線のもとに長時間放置すると、紫外線により表面が劣化するおそれがあります。
- 発泡芯材部は80℃以上になると変形しますので、高温のものや火気がない場所に保管してください。

■施工

- 充てんモルタルが硬化するまで添え木などで支え、ずれたり倒れたりしないように注意してください。
- 気温が5℃以下になる場合は施工を避けてください。
- 充てんモルタルの浮き水がブロック表面に流れ出た場合は、すみやかに水洗いしてください。白華の原因になります。
- 接着やコーキングは当社指定の「専用接着剤」を使用してください。
- ブリックや目地に直接ネジ類でポスト等重量物を取付けないでください。落下するおそれがあります。
- 表面にモルタルが付着した場合は、速やかに柔らかいナイロンブラシなどで水洗いをしてください。乾燥してからの酸洗いや、金属ブラシでの清掃はブリック表面を傷めますので行なわないでください。
- ブロックの切断加工等で発生した「切粉」は、ナイロンブラシ類ですぐに取除いてください。雨水で染み付いて、ブロック表面を白く汚染する原因になります。
- 発泡芯材の化学的性質は一般に弱酸、アルカリ、塩類などに優れた抵抗性を持っていますが、アルコール以外の有機溶剤や石油類に侵される性質を持っていますので、それらが付着しないように注意してください。
(例：有機溶剤系塗料、接着剤、有機溶剤系はっ水剤、灯油、ガソリンなど)

<使用上のご注意>

- 年に2～3回の水洗いをしてください。
- 清掃には金属製ブラシや金ペラは使用しないでください。表面を傷めるおそれがありますので、柔らかいナイロンブラシなどを使用してください。
- 汚れがひどい場合には、中性洗剤をうすめた液で汚れを落としたあと、洗剤が残らないようによく水洗いをしてください。その際、近くの植栽に洗剤がかからないように注意してください。
- シンナー、ベンジンなどの有機溶剤の使用は避けてください。
- 商品の発泡芯材は難燃材を含んでいますので、微小火源では着火しにくくなっていますが、80℃以上で融解する性質があります。火気や高温のものを近づけないでください。

取説コード

B047200003A
200008B